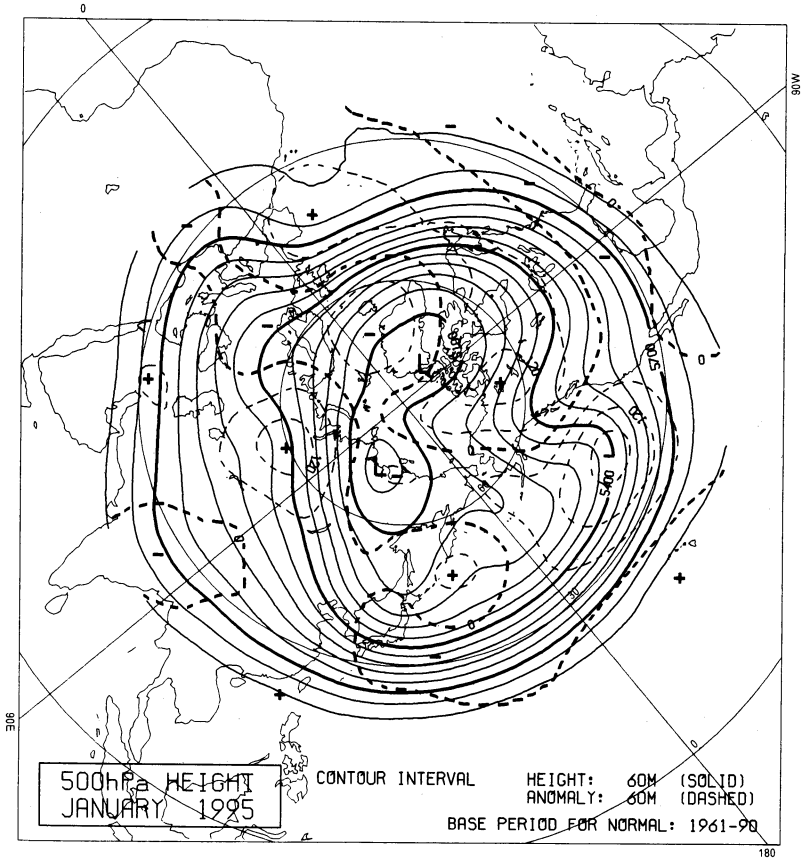


1995年1月の大気大循環と世界の天候
月平均 500 hPa 天気図



(破線は平年からの偏差, 単位m)

表 1 1995年1月の気候表

地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級	地点名	気温 °C	偏差 °C	DT/SD	降水量 mm	比率 %	降水 階級
パリ	5.4	1.9	0.7	113	208	6	カサブランカ	12.9	0.2	0.2	5	8	1
ベルリン	—	—	—	—	—	—	ニオロドサヘル	21.0	-1.6	-1.0	0	0	4
ローマ	—	—	—	—	—	—	プレトリア	—	—	—	—	—	—
イスタンブール	6.6	1.0	0.7	104	105	3	バンクーバー	4.6	1.6	0.8	164	110	3
モスクワ	-5.9	3.3	0.8	67	149	—	ニューオーリンズ	11.7	1.1	0.4	93	71	3
オデッサ	-1.0	0.4	0.1	51	119	4	セントルイス	-0.6	1.1	0.3	112	243	5
ニューデリー	13.5	-0.7	-0.8	—	—	—	サンフランシスコ	11.2	2.0	1.7	226	205	5
カルカッタ	—	—	—	—	—	—	ニューヨーク	3.3	3.5	1.5	87	114	4
ボンベイ	—	—	—	—	—	—	マナウス	26.9	0.8	1.1	277	105	3
ホンコン	15.8	0.0	0.0	19	81	3	サンパウロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	-11.4	4.5	2.0	3	103	3	ロサリオ	23.5	-0.8	-0.9	227	209	5
ペキン	-0.7	3.6	3.0	0	0	2	ホノルル	23.4	0.7	0.9	6	7	0
シャンハイ	4.9	—	—	47	—	4	タヒチ	27.3	0.5	1.0	466	153	5
バンコク	26.6	0.1	0.1	0	0	—	ダーウィン	27.4	-0.9	-1.5	940	216	6
マニラ	28.9	3.4	3.8	—	—	—	キャンベラ	19.3	-1.1	-0.7	218	402	6

1月の世界の天候

1月の北半球500hPa高度天気図は、昨年夏から続いていた極付近に負偏差が卓越する分布が解消し、正偏差と負偏差の面積がほぼ同じ分布になった。中緯度では、日本から北アメリカにかけて帯状に負偏差域が広がりヨーロッパも負偏差におおわれた。

① シベリア南部から中国北部にかけての高温

② ロシア北部の高温

月平均気温が平年より4°C以上高い領域が、西はスカンジナビア半島から東は中国北部まで帯状に広がった。ロシア北部では平年より10°C以上高くなったところもあった。オビ川下流域の町サレハルドの月平均気温は-13.2°C(平年差+11.6°C)だった。

③ ヨーロッパ西部の多雨

ヨーロッパではスペインなどの地中海沿岸部を除き多雨傾向のところが多く、特にドイツやフランスなどヨーロッパ西部では月の半ば以降頻りに低気圧や前線の影響を受け長雨に見舞われた。これらの地方では平年2~3倍の月降水量となったところがあり、ライン川が決壊するなど洪水による大きな被害が出た。オランダでは河川の水位が上昇し、1953年以来最大規模の25万人が避難したと報じられた。

④ カリフォルニアの多雨

合衆国東部や西海岸は多雨で、カリフォルニア州で

は月の前半にしばしば発達した低気圧の影響を受け、大雨と強風により大きな被害が出た。月降水量は、サントマリアで299mm(平年の5.5倍)など、平年の4~5倍に達したところがあった。同州の被害額は過去最大の13億ドル(約1300億円)以上と推定されている。

⑤ ブラジル西部の高温

ブラジル西部のアマゾン川上流域では、月平均気温が平年より2~4°C高いところがあり、高温だった。一方、アルゼンチンやウルグアイでは低温傾向だった。

⑥ オーストラリアの多雨

昨年3月以降少雨傾向が続いていたオーストラリアでは、西部や東部の沿岸部を除いて多雨に変わった。

⑦ ニュージーランドの少雨

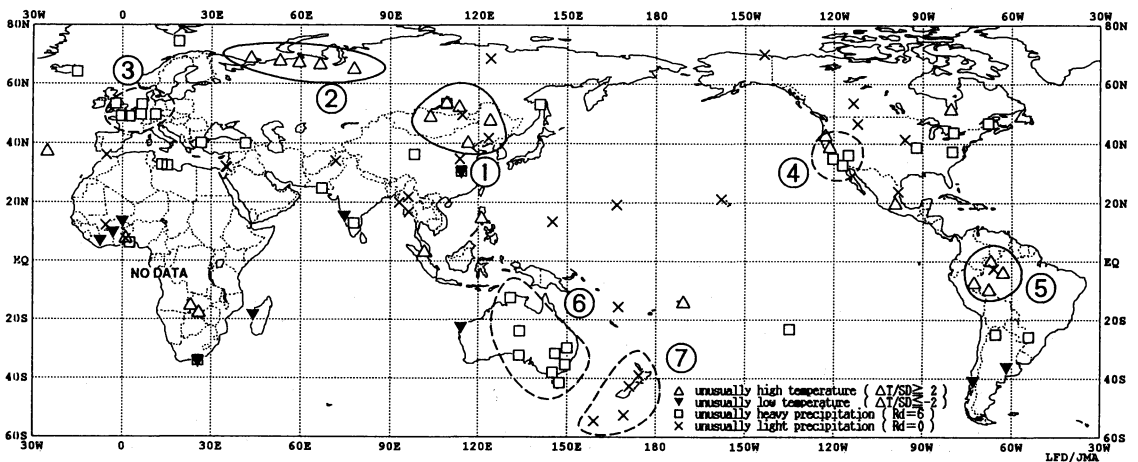
ニュージーランドは少雨で、北島では干ばつによる農作物への被害が伝えられた。

⑧ その他

中国西部からインド北部にかけては低温傾向となった。インド北部やバングラデシュ北部では一時厳しい低温に見舞われ、雪崩や寒さによる死者が伝えられた。

雨期のマレーシア南部では平年の2倍程度の月降水量があった。

(気象庁予報部長期予報課 三浦芳敬)



1995年1月の世界の異常天候分布図

△：高温 ▼：低温

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

□：多雨 ×：少雨

1995年1月の気候表の説明。平均値は、1961~1990年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。500hPa高度場の平均値は1961~1990年の30年平均値。

太陽黒点の状況 (1995年 1月)

太陽の黒点相対数は、1980年以前はスイスのチューリッヒ天文台で決めていたが、現在はベルギーのブリュッセルにある黒点数データセンター (Sunspot Index Data Center) で決めている。このセンターでは、世界の50~60か所の観測データを使って日ごとの黒点相対数を決定し、これから月平均値、年平均値などを計算し各国の関係機関に通知している。黒点相対数は、この量を使い始めたウォルフ (R. Wolf) の名を取り、ウォルフ黒点相対数ともいわれる。具体的には、次のような式で計算する。

$$r = k(10g + f)$$

ここで、 r : 黒点相対数 g : 黒点群の数

f : 黒点の数

k : 規格化のための係数 (観測機器、観測者などによる係数)

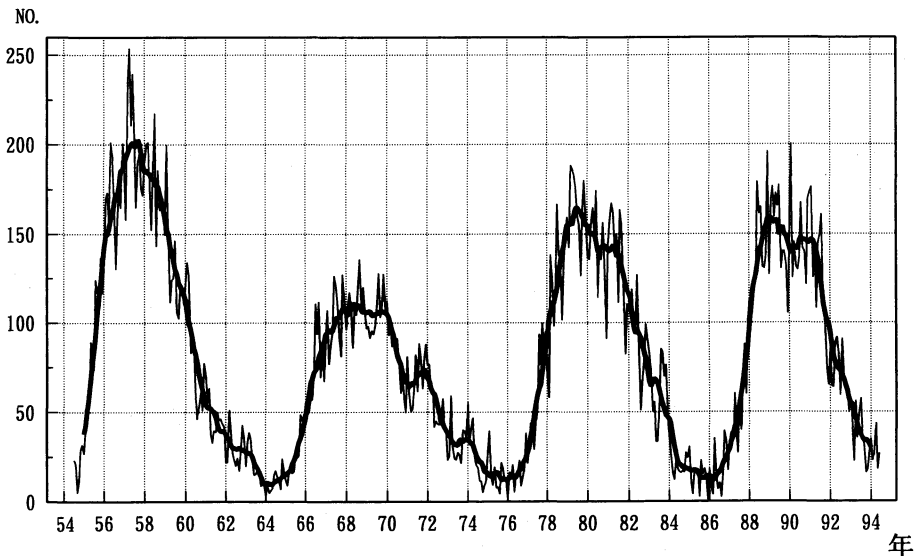
黒点相対数 r は11年を周期として増減を繰り返すが、周期には2、3年のずれが起こることもある。極大は一般に周期の中央より前に起こる。1954年以降の黒点相対数の経過 (図参照) をみると、低極は1964年、76年、86年頃にあり、次の低極は1996~97年になりそうである。現在はこの低極に向かってゆっくり減少していく過程である。表には1994年1月以降の黒点相対数の月平均値を示す。

(気象庁予報部長期予報課 湯田憲一)

最近1年間の太陽黒点相対数

(9月までは確定値、10月以降は暫定値)。

年 月	94年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	95年 1月
黒点相対数	57.8	35.5	31.7	16.1	17.8	28.0	35.1	22.5	25.7	43.8	18.0	26.7	23.8



太陽黒点相対数の時系列 (1955年1月~1995年1月)

細い実線：月平均値 太い実線：12か月移動平均 (横軸の目盛りは各年の7月の位置に対応)。